

漢語老師

初中級レベル【成功！中国語】学習到達目標

ビジネスや留学で自分の想いを十分に伝えられる、現地での生活で困らない会話力、相手の言っていることを理解できるなどの総合的な中国語力を習得することができます。資格試験では中国語検定3級、HSK4級への合格を目指すレベルです。

3 3
課

結果補語①

この課では「書き終わる」「手配しておく」というような、動作の結果を表す結果補語を学習します。結果補語を用いることで、動作の対象がその動作によってどういう状況にあるかが詳しく説明できるようになります。

3 4
課

結果補語②

この課では引き続き結果補語を学習します。この課で学習した結果補語を用いることで、「氏名は左上に書いてください」「これらのサンプルを取引先のところまで送ってください」といった動作の到着する先が表現できるようになります。

3 5
課

方向補語①

この課では主に「～してくる」「～していく」という動作の方向を表す方向補語を学習します。方向補語を用いることで、「～に入ってくる」「～に走っていく」という動作の向かう方向が表現できるようになります。

3 6
課

方向補語②

この課では引き続き動作の方向を表す方向補語を学習します。この課で学習する方向補語を用いることで、「走って入ってきた」「歩いて帰っていった」というような動作のありさまが詳しく表現できるようになります。

3 7
課

方向補語③

この課では方向補語の本来の意味から発展した意味を使って表現する各種の例文を学習します。方向補語の発展した意味を使うことで、「大学に合格した」「思い出した」「思いついた」「誠実に見える」など、少し複雑な表現ができるようになります。

3 8
課

“把”構文①

この課では主に「～を」に当たる「把」構文を学習します。「把」構文を用いることで、「携帯電話を切ってください」「窓を開けてください」など、相手に注意したり、何かを依頼したりする表現ができるようになります。

3 9
課

“把”構文②

この課では引き続き「把」構文を学習します。ここでは、「把」構文を用いることで、「日本語を中国語に訳します」「契約書を金庫の中に入れてください」など、動作の対象がその動作によって変化した結果が表現できるようになります。

4 0
課

受身表現“被、叫、让”

この課では主に「雨に降られた」というような受身表現を学習します。受身の意味を表す“被”“叫”“让”を用いることで、「財布を取られた」「蚊に刺された」などのような被害を被ったときの表現や「褒められた」「抜擢された」という評価されたときの表現ができるようになります。

4 1
課

使役表現“让、叫、使、请”

この課では主に「～させる」というような表現を表す使役表現を学習します。使役の意味を表す“让”“叫”“使”“请”を用いることで、「ちょっと見せてください」「紹介していただきます」「ちょっと融通を聴かせていただけますか？」というような使役表現ができるようになります。

4 2
課

兼語文

この課では主に呼称や愛憎などを表す動詞を使う兼語文を学習します。“选”“说”“喜欢”“讨厌”“佩服”などを用いることで、「Aの～が好きです/嫌いです」「大連を北方の香港と言います」「～に感心しています」というような表現ができるようになります。

4 3
課

可能補語①

この課では主に「可能を表す」可能補語を学習します。結果補語や方向補語がついている動詞の可能表現には可能補語を使います。この課の学習を通じて、補語を伴う動詞の可能表現が身につきます。

4 4
課

可能補語②

この課では会話でよく使う「可能を表す」可能補語を学習します。この課で学習する可能補語を用いて、「経済的な余裕があるから買える」「空間的な余裕があるため収容できる」「～したので～できない」などいろいろな可能や不可能の理由が伝えられるようになります。

4 5
課

様態補語①

この課では「走るのが速い」「起きるのが遅い」というような表現を表す様態補語を学習します。様態補語を用いることで、動作の結果やありさまについての評価や感想が述べられるようになります。

4 6
課

様態補語②

この課では「忙しくてご飯を食べる時間はありません」「感動して言葉が出ません」というような表現を表す様態補語を学習します。この課で学習する様態補語を用いることで、「どれだけ忙しいか、どれだけ嬉しいか」といった表現ができるようになります。

4 7
課

程度補語

この課では「とても～」「大変～」というような表現を表す程度補語を学習します。程度補語を用いることで、「嬉しくてたまりません」「すごく驚いています」というような心理活動や感情などが表現できるようになります。

4 8
課

疑問詞の非疑問用法

この課では「～したい人は（どこへでも/何でも/いつでも）～してください」というような疑問詞を使って不特定を表す用法を学習します。この課の学習を通じて「好きなものなら何でも食べてください」「行きたい人は誰でも行ってください」「都合の良いときにいつでも来てください」というような表現ができるようになります。